

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 応 募 論 文 か ら ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガバナー賞

人に寄り添う力を胸に

尾道高等学校 3年 山口ちまき(SI尾道 推薦)

私は幼い頃に比べ、失敗を恐れ、周りに合わせるが多くなったように感じる。それは自分の人生で大きな選択を迫られた時や辛い局面に立たされたりしたときに思わず逃げてしまうようなことだ。私は11年間続けてきた極真空手を昨年やめた。その理由は、コロナ禍により両親が別居することになり、母が私と妹を一人手で育てることになったからだった。

心身ともにきつかった11年間。私は正直ほっとした。「やっとこのしんどさからぬけさせる。」このように思ったのだ。全国大会の出場者は秋の大会に向けて夏に地獄のような強化合宿を乗り越える。真夏日の武道場で、自分の限界を引き出し続ける。ほとんどの人の心が折れかけている残り数時間でスパークリングに入る。その時、道場の先生方はいつも「相手のことを想うなら本気でいけ」とおっしゃる。ここで手を抜いてしまうと限界の先に行けず、強くなれないからだ。その瞬間のための優しさではなく、その先のための優しさを与えることが真の相手への優しさであり、思いやりであると学んだ。極真空手から離れてしまった今となって、汗と涙を流しながら手足の皮膚がすり切れても食らいついたあの辛い経験は、私にたくさんのことを教えてくれたと感じる。私は人一倍、人の辛い気持ちに寄り添える力を手にいれることができたのではないだろうか。

私は将来、生徒の夢に追い風を吹かせられるような教師になりたい。その人の未来をその人の横で伴走しながら創造していきたいとおもう。私はその人にとっての「優しい人」でありたい。私の人生はまだまだどのようになるのか、見えていない部分も多い。見えないからこそ不安もそして喜びも感動もあるだろう。それは完成なんてものはない武道と同じだ。それでもなお人格の陶冶と心身の鍛錬を目指して一歩ずつ歩み続ける姿勢こそが、大切だと考えている。自分の描いた未来に近づくために失敗を恐れず、私らしく突き進んでいきたい。